

しおさい



新緑の老部川で溪流釣り

【主な内容】

- 特集記事「シリーズふるさと見聞録」：砂子又
- 「明日へのかけはし」：尻屋婦人会
- 「ファイト!わんぱく」：小田野沢ジュニアバレーボールクラブ
- クローズアップ「こんにちは元気さん」：彩書家 手間本北栄さん
- 「地元の特派員レポート」
 - 角本 琴乃さん
 - 山崎 紗弥加さん
 - 中西 富子さん

vol.5

平成20年6月発行
東北電力(株)東通原子力発電所

東通村29の集落の特徴的風物や人物を探る!

砂子又 (すなこまた)

団結し、協力し合い地域活動が盛んな集落!

田名部川支流の大川沿いの河岸段丘と低地にできた集落、それが砂子又集落です。この地区にある圓流寺が草創された1670年には、すでに集落が形成されていたと伝えられています。

「砂子」というのは「砂金」の意味で、金がとれたという伝説も残されています。実際には砂鉄が多くとれ、鉄を溶かす燃料に最適な檜の木も豊富だったことから、この地で鉄の精錬が行われていました。それを裏付けるように、この地区のあちこちから今でも鉄くずが見つかっています。

歴史ある圓流寺の門前には、高さ1.8mもある下北地方最大のこうしんとう庚申塔があります。この庚申塔は昔、厄除けとして旧田代街道との分岐点に建っていたそうです。

基幹産業は農業と畜産で主に牛や馬の繁殖が行われていました。現在は田畑も減り、勤め人が多くなっています。

昭和63年、この地区に村の皆さんが念願していた役場が移転したことで、公共施設や居住施設が整備され、砂子又は新しい時代の中心的な場所となっています。

部落会、郷友会、老婆会などの活動も活発で、婦人会を中心とした村で唯一の婦人消防クラブは、今年の東通村消防団定期観閲式で小型ポンプ車の操作訓練を披露しています。行事の際は団結し、互いに協力し合う地域です。



婦人消防クラブ



圓流寺



圓流寺門前にある下北地方最大の庚申塔



南部藩お殿様のお休み処であったへんべの家(旧田中家)

今は、現存しておりませんが、砂子又にあった“へんべの家”と呼ばれる旧田中家は、南部藩のお殿様が南部から田名部へ行く途中、または帰路の際、休憩されるお休み処をつとめた農家でした。“へんべ”というのは、旧田中家の先祖「田中へいべい」という名前に由来。お休み処は東通ではここだけだったため、集落の誇りでもありました。

同じ農家でも家の作りは特別で、屋根の一番高いところに芝を付けて雨よけにした茅葺寄棟屋根のほか、全体的に窓は少なく、白い壁、籠置き場、したみせ・うえみせといわれる続き間の座敷があったそうです。



かつては33もの演目があった砂子又の能舞ですが、現在は「権現舞」「翁」「三番叟」くらいに減少しました。そこで師匠から古い演目を習い、子どもたちに教えて後継者を育てています。会員は12人。子どもは少ないけど、鉦、笛、唄、太鼓も若いものだけでできるよう頑張っています。



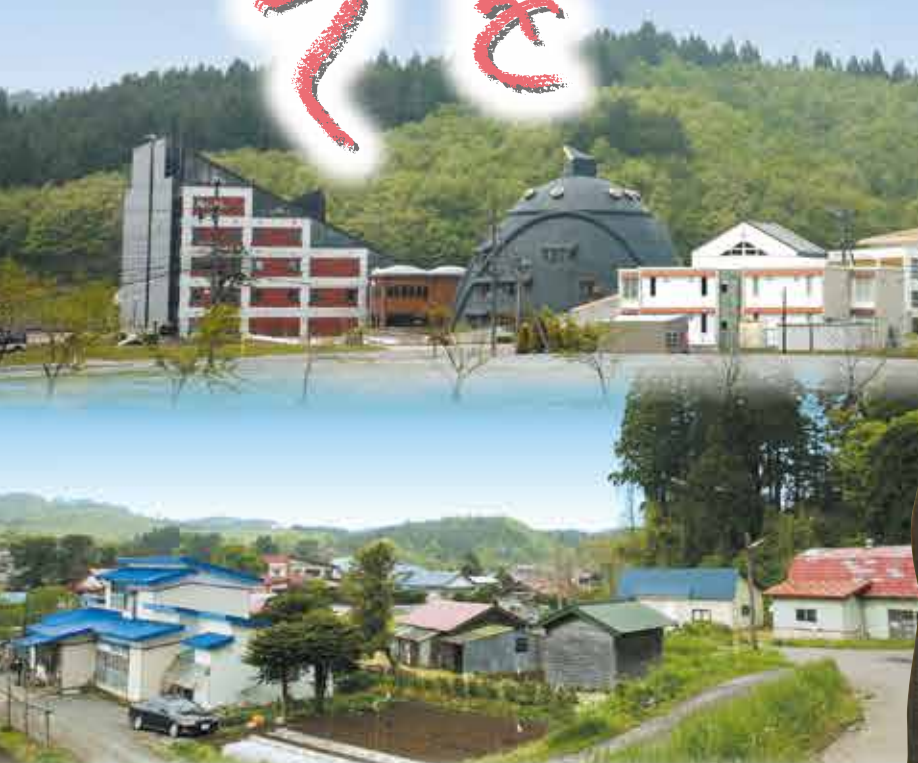
郷友会長
かわらだみつお
川原田光雄さん(45歳)

砂子又を 訪ねて

東通の未来を見守る 中心的な集落

役場、消防、病院、小中学校などが建ち、これからますます発展していく部落です。春は山菜も豊富に採れ、夏は涼しく空気が美味しい地域なので、もっとたくさんの人に住んで欲しいです。能舞、もちつき踊りなど伝統芸能を守り、後継者も育てたいと思っています。

砂子又部落会長
まつきしょういち
松本昭一さん(70歳)



部落顧問
かわらだこういち
川原田幸一さん(83歳)

昔、私の家はひとつ屋根の下に18人も住む大家族でした。そのため、田んぼや畑は機械がなくても人手だけで耕すことができました。子どもが多く、みんな仲良く暮らし、凶作が3年続いても困らないくらい米蔵に食料を蓄えていました。昔はどの家もそうでした。

今は核家族化が進み田畑を耕す人が少なくなりましたが、私は毎日田畑に出て健康を保っています。



集落の山野に詳しい
まつき かねみ
松本 兼美さん(77歳)

村内で、お寺があるのは蒲野沢とこだけです。

また砂子又には国有林があるので、森林事務所があります。若い頃は営林署に勤める傍ら、牛や馬を飼い、子どもが生まれそうになった時は、自分で取り出して育てていました。

最近では自分の山に行くと樹木の枝などの切り払いを、のんびりと過ごしています。

明日への かけはし

尻屋婦人会

本州最北東端・尻屋崎を私たちの手でキレイにしたい！

東北で最も古い洋式灯台と寒立馬で知られる、本州最北東端の尻屋崎。地元尻屋婦人会は25年前から、観光客が訪れる美しい岬をカッチャのパワーできれいにしようと頑張っています。

婦人会の会員は、尻屋に嫁いでいる50歳までの17人。観光シーズンの5月から10月まで毎月1回、尻屋崎ゲートの端から端まで約6kmに渡る沿道のゴミを拾い歩きます。

今年最初のゴミ拾いは、5月13日に会員全員が参加して行われました。午後1時、センターに集合したお母さんたちは、軽トラックに分乗。ゲートから灯台、灯台から油小石、油小石から赤川と、3班

に分かれて現地へ向かいます。

沿道では、海から風で飛んできた発泡スチロールや、ペットボトル、空き缶など、燃えるごみと燃えないごみに分別しながら、30袋分を拾い集めました。

会長の浜端一枝さんは「全員が参加できる日程を調整するのは大変ですが、ゴミ拾いはみんなでおしゃべりしながら楽しんでやっています。何より尻屋崎がきれいになるのは気持ちがいいし、きれいにすることで観光客もゴミを捨てなくなりました」と話します。



尻屋婦人会の皆さん

婦人会ではゴミ拾いのほか、漁協のトイレ清掃(毎週)や、集会施設の清掃も行っております。「これらの活動を今後も若い人に引き継ぎ、ずっと続けたいですね」と意欲をみせていました。



寒立馬もキレイになって喜んでます！



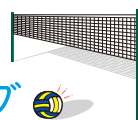
隅々までゴミを探す皆さん



キレイになった尻屋崎

ファイト! わんぱく

小田野沢ジュニア バレーボールクラブ



キャプテンの
はたなか かすみ
畑中香澄さん



東通村でバレーボールといえば「小田野沢」といわれる程、バレーボールが盛んな小田野沢地区。この春から中学校の統合により小学生だけの練習となりましたが、6年生を中心に声を出し合いながら頑張っています。

メンバーは6年生3人、4年生3人、3年生4人の合計10人。昨年の第27回むつ市秋季大会では、見事優勝を果たしています。

練習は月、火、木、金、土曜日で、毎回2時間。監督の藤井健先生の指導のもと、基礎トレーニングと体力作りを中心に行っています。小田野沢小学校の部活動は、男子が野球部、女子はバレーボール部と決まっていますので、バレー部は体育館を自由に使い、サーブやトスの練習もしっかりと行っています。人数が少ないチームなので少しでも試合経験を積ませようと、

遠征は下北地域のみならず、三沢、青森まで出かけます。

キャプテンの畑中香澄さんは「明るくて楽しい、みんなで助け合うチームです。去年優勝しているので今年はもっと強いチームになれるよう頑張りたいと思います」と決意を語ります。

藤井先生は「バレーボールは、1人が頑張ってもどうにもならない、チームプレーのスポーツです。6年生3人が4年生をフォローし、勝ちたいという強い意志で練習に励んでいます。今年は小田野沢小最後の年。このメンバーでまずは試合に勝って自信をつけ、更に前へと進んで欲しいと思います」と話していました。



交流試合の様子





こんにちは

元気さん

みんなに喜ばれるアートな「彩書」を描き続けたい!

さいしよか て ま もと ほく えい
国際芸術として高い評価を受ける 彩書家 手間本北栄さん(54歳)

村内で元気に活動する人を紹介する「こんにちは元気さん」。今回は心のこもった独特の作風で書を描く、彩書家の手間本北栄さんにお話を伺いました。



バルセロナ国際サロンで金賞に輝いた「天馬」

まるで笑っているように、水色と白の字でのびのびと描かれた「空」、天にも昇るような勢いにあふれ、見る角度によって色が異なる「天馬」……。東通村東栄地区に住む

手間本北栄さんは、日本で唯一の「彩書家」として、下北の自然の中で創作活動に取り組んでいます。手間本さんが書と出合ったのは小学4年生のときです。「赴任してきた校長先生の書く文字に興味を持ち眺めていると、校長先生から1本の筆をもらい、書の勉強を始めたのがきっかけです」と話し始めました。

田名部高校に入学しますが、家庭の事情で2年生の時に仙台へ。仙台第一高校に通い、下宿先で知り合った学校の先生とともに文字を学び、19歳で書道研究「麗」を主宰、22歳で書道教室「北栄書道会」を設立。子どもたちに、文字や漢字の成り立ちとともに書を教え始めたそうです。

手間本さんの描く文字は楷書とは違い、文字の持つ意味に情感を込めた自由な作風で、草書に近い行書が特徴。

馬の絵で世界的に有名な洋画家三上隆彦氏に「お前、面白い書を描くな」といわれ日輝展に作品を発表。国際展へも出品するようになります。

そんな折、「文字のそばに挿絵を描いていたら、色絵の具が偶然文字の上に落ちたんです。それは絶妙な美しさで、文字に色を入れるのもおもしろそうだと思い一本の筆先に複数色の顔料や濃淡の墨をつけ、一気に描き上げる『彩書』を描き始めるようになりました」と明かします。

書道の専門家からは「こんなものは書道なのか?」といわれましたが、一般の人からは「初めて見た」と喜ばれ、1994年サロン・デ・イベール(パリで開催される美術展)に彩書「女」を初出品すると、日本人としては初めて銅賞に輝き、その後もベルギーやスペインの美術展で次々に金賞を受賞します。

しかし、20年間休みなしで働いたのがたまって入院。8年前に故郷へ戻り、大自然の中で病を克服。2年前、復帰1作目の「天馬」(左上写真)がバルセロナ国際サロンで金賞に輝いたのです。「自らの復帰を願い、天に馬が駆け上がる姿を表現しました」と話します。

「自然に恵まれた東通村での暮らしは、毎日朝日や夕日を見ながらのんびり過ごすので、それが文字にも表れるんですよ」と手間本さん。「最初、自分の書に賛同してくれる人が少ないときは大変でしたが、師につかず、がむしゃらに進んできたからこそ、様々なジャンルの人たちと出会い、独創的な『彩書』を見いだすことができた。これからもみんなの喜び顔が見たいから、文字の意味を考え、心のこもったアートな作品を描き続けたい」と話していました。

手間本さんの作品は、村内の集会施設や、この春完成した東通中学校にも飾られ、地域の人たちの目を楽しませています。



制作に励む手間本さん



東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

岩屋の風車

私は、岩屋の風車について調べました。

風車は、2001年の11月につくられました。風車の高さは、地面から68メートルで、支柱の太さが約4メートルあります。羽の長さは1枚30メートルあるそうです。

風車がこわれないように、毎日、修理や整備をしているそうです。風車は、風がないと回りません。風速3メートルから回りはじめます。風が強すぎると危険なので、自動

東通村岩屋在住
東通小学校(6年)
かくもと ことの
角本 琴乃さん(11歳)

的に止まるようになっていました。岩屋は、風が1年間を通して、よく吹く場所なので、風力発電をおこなうには、とても適した場所です。

東通村には、岩屋に45基、尻労17基、小田野沢に10基あります。なので、東通村では岩屋が一番多いそうです。

私は、いつまでも、岩屋の桑畑山に建つ風車をながめていたいと思います。



岩屋ウィンドファーム



取材に協力していただいた
(株)ユーラスエナジー岩屋さん
ありがとうございました。

帰ってきたくなる 素敵な場所「目名」

目名地区は、向野から高間木まで広がる大きな地区です。農業従事者も多く、米・野菜を主に、そばの実、ブルーベリーやいちごなどの果物も作付けされています。

私は短大を卒業した後は迷いなく地元に戻ることを決めました。それは地元が大好きだからです。思い出深い場所や、素敵な場所が目名にはたくさんあります。大利地区に向かう途中に広がる田園地帯を抜けると大きな松があります。私達は一本松と呼び、小さい頃は待ち合わせの場所にして遊びに行っていました。そこから皆で川に行ったり児童館



思い出の一本松

今回の達人

「和風料理 楠こう」

料理長

くろかわ かずゆき
黒川 和 幸さん(38歳)



●プロフィール

神奈川県横須賀市出身。高校を卒業と同時に東京の割烹料理店で修行。12年前からむつ市に移り住み、7年前から楠こうへ。現在調理長として腕を振るう。

東通産タコを使った タコとミズを 使った卵とじ(4人分)

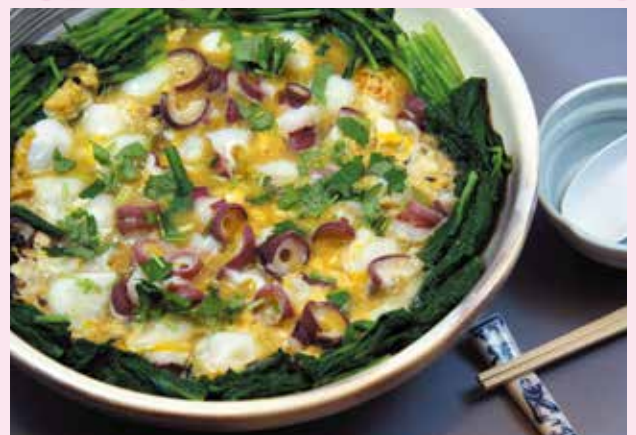
〈材料〉(4人分)

タコ足1本、ミズ一束、岩のり20g、笹打ちねぎ150g、卵4個、三つ葉適宜
◎合わせだし／だし汁300cc、薄口醤油20cc、みりん30cc、味噌10g

〈作り方〉

- ①タコ足の皮と吸盤を取ります。
- ②タコの身をできるだけうすく一口大に切ります。
- ③合わせだし汁に、ねぎ、岩のり、ミズを入れて煮ます。
- ④火が通ったら、切ったタコの身と吸盤を入れ、卵でとじます。
- ⑤器に盛り、三つ葉をちらして出来あがりです。

達人がつく



達人の
ワザ

タコの食感を楽しむため、タコに火が入りすぎないように作ります。



写真は特派員が自ら撮影したものです。



東通村目名在住
やまざきさやか
山崎紗弥加さん(21歳)

で遊んだり
と、部落中
いろんな所
で遊んでいた
思い出が
あります。



また、目名
にはとても花が多いと思います。
道路沿いには様々な種類・色の花があり、
私達の目を楽しませてくれます。

この他にもたくさん素敵なおところ
があります。目名は都会の様な華や
かさはないけれど、心温まるものが
たくさんあるし、何より落ちつく場
所があるので、迷わず地元に戻っ
てきたんだと思います。

そんな目名が大好きです。



キレイに咲き誇る花々



東通村大利在住
なかにしとみこ
中西 冨子さん(63歳)

チャンピオン牛を 元気に育てる!

私が住む大利地区で、肉用牛のチ
ャンピオン牛を育て、頑張っている
のが佐々木義美さんです。

佐々木さんは昭和37年から牛を
飼い始め、今も母牛9頭を現役で育
てているほか、水田1.3ヘクタール、
畑0.3ヘクタールを耕しています。
この畑では、牛のエサとなるデント
コーンを栽培しています。

今年は、母牛から生まれた子牛
を育て、共進会に出品しました。入
賞の発表で自分の牛の番号が放送
されたとき、佐々木さんは信じら
れなかったそうです。

そして、これまで牛を大切に育
ててきて、本当に良かったと心か
ら喜んでいました。

これから牛とともに毎日を元
気に生きる!と話していた佐々木さ
んから、私は力強いパワーをもった
気がしました。



牛のエサとなる畑に丁寧に肥料をまく



丹精込めて育てている母牛と子牛



受賞の喜びを語る佐々木さん

る 簡 単 料 理

東通和牛、野牛産帆立を使った
揚げ出しあんかけ(4人分)

〈材料〉(4人分)

和牛ミンチ500g、帆立8枚、玉ねぎ(中)1個、卵2個、アスパラ3本、
にんじん1/4本、竹の子1/4個、まいたけ半パック、トマト1/2個、塩、
こしょう、薄口醤油、片栗粉、各適宜

◎合わせだし／だし汁450cc、濃口醤油50cc、みりん50cc、
砂糖小さじ1、水溶片栗粉

〈作り方〉

- ①ボウルに和牛ミンチ、卵、玉ねぎのみじん切りを合わせ、塩、こしょう、薄口醤油を入れ、よく混ぜます。
- ②帆立は殻からはずし、さっと茹でて1個を6等分して、水気を切ります。
- ③合わせたミンチ(①)で帆立を包み、片栗粉をつけ、170度のサラダ油で約3分揚げます。
- ④合わせだし汁に、せん切りしたにんじん、竹の子、まいたけを入れて煮、水溶片栗粉でとろみをつけ、あんを作ります。
- ⑤揚げた団子(③)に、あんをかけ、さっと茹でたアスパラ、トマトをちらして出来あがりです。

達人の
ワザ

帆立を包むとき、身がはみ出さないよう上手に包みましょう。





クイズ なるほど 「ザ・方言」



地元の皆さんは
すぐわかるよ

問題

■東通村(下北地方)には、いろいろな方言が残っているよ。
右記の①～⑦までの方言を考えてネ。
○に入る言葉を並べかえると、今回も東通村のある
集落名になるよ。
さて、どこでしょう?

- ① 気弱な。度胸がない ☐ う ☐ ☒ ね ☐
- ② うに ☐ ☒ ん ☐ ☐
- ③ 体の芯から冷える ☐ ☐ ぐ ☒ ☐ る
- ④ 能率があがる ☐ ☒ が ☐ ☐
- ⑤ お手玉 ☐ ☐ ☒ こ ☐
- ⑥ 勤勉で熱心によく働く ☐ ☐ め ☐ ☒
- ⑦ かわいげがない ☐ い ☒ ☐ ☐ ね

応募方法

★折り込みの応募ハガキにクイズの答え、氏名、年齢、住所、電話番号そして当広報誌「しおさい」についてのご意見、ご感想をお書きの上、ご応募ください。正解者の中から抽選で10名様へ素敵な景品をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は景品の発送をもってかえさせていただきます。

〈応募締め切り／平成20年9月1日(月)消印有効〉

前回(vol.4H19年12月発行)の答え

とよさかえでした。

- ① 子どもたち ☒ わ ☒ ら ☒ さ ☒ ん ☒ ど
- ② 見栄っ張り ☒ え ☒ ぶり ☒ こ ☒ ぎ
- ③ ごちそうになる ☒ よ ☒ ば ☒ え ☒ る
- ④ 元気な ☒ き ☒ か ☒ ね
- ⑤ 取り戻す ☒ と ☒ っ ☒ け ☒ す

多数のご応募ありがとうございました。

読者からの声

vol.4に皆さまからたくさんのご意見、ご感想をお寄せいただきました。
大変ありがとうございました。

- 毎回、東通の新しい発見をさせていただき感謝しています。おかげさまで東通のことが好きになりました。ありがとうございます。特に方言クイズは勉強になります。方言っていいですね。次回も楽しみにしています。(小田野沢在住 Sさん)
- すべての内容が良かったです。楽しく読ませていただきました。方言クイズはいつも応募したいと思いつつなかなか応募できなかったのですが、今回からハガキがついてきたので活用したいと思いました。(小田野沢在住 Kさん)
- 東通の住民でありながら村内の分からないことが多いけど、しおさいによってあらためて分かることがあります。毎回の発行を楽しみにしています。(蒲野沢在住 Gさん)
- 8ページの内容が充実していますね。東通村に生まれながらほとんど知らないことが沢山あり感心しながら拝見しています。特にシリーズふるさと見聞録には伝統を守る力強さを感じました。東通村の奥深さをこれからも伝えてほしいと思います。(白糠在住 Wさん)

- 方言クイズとても楽しかったです。母と協力して答えを出しました。身近なことでも知らないことがたくさんあり驚きました。これからもしおさいを読んでたくさん学んでいきたいと思います。(白糠在住 Tさん)
- シリーズふるさと見聞録では、稲崎・雲崎神社のことや稲崎地区の風習などが分かり、すごくためになりました。東通村に住住しても分からないことが多かったので勉強になりました。これから「しおさい」応援していきますよ。(尻屋在住 Sさん)
- いつも楽しみにしています。今回のシリーズふるさと見聞録で紹介されていた梵字(ほんじ)にすごく興味があります。ぜひ見学に行きたい。「表紙の絵」すごく気になる。誰が書いているのかな。同じ人と思いますが・・・(砂子又在住 Mさん)
- 東通村にはよい所がありますね。方言クイズにすごくはまっています。次回も楽しみにしています。(田屋在住 Nさん)

広報誌「しおさい」についてのご意見・ご感想をお待ちしております。

編集後記

前回の発行から、クイズの解答や貴重なご意見などを気軽に寄せいただける応募ハガキを折り込んだ結果、多くの皆さまからご応募いただきました。ありがとうございました。皆さまから、「地域を知ることができ勉強になった」「方言クイズがおもしろい」などのご意見が多く寄せられております。

今後も東通村の素晴らしいところをお伝えしていきますので、気づいたことや感じたこと何でも結構です。お気軽に応募ハガキにご記入いただきお送りください。

これからも皆さまに愛読される広報誌を目指してまいります。

●発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。